

第2回 ウィズあかし運営委員会（研修会）実施報告

日時：平成30年11月10日(土) 13:00～15:00

場所：ウィズあかし9階 研修室

参加者：運営委員 9 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 12 名 その他 5 名

1. 前半は、「これからのウィズあかしに期待される姿～複合型の可能性を開く～」をテーマに、中川先生（帝塚山大学名誉教授）にご講義いただきました。
2. 後半はグループに分かれ参加者による意見交換会を実施し、下記の意見が出ました。

【グループディスカッション意見】

テーマ：「ウィズあかしがこんな場になればいいな／ウィズあかしに期待すること」

- 多拠点化（出張をする、中学校コミセンにもキーステーションを設ける等）を行い、より幅広い場所への発信や、情報収集を行い集約することが必要。
- 利用者に「ウィズあかしに相談したら解決する、情報をもらえる！」と思ってもらえる場所になってほしい。
- ハブ機能として利用者の悩みを解決（コーディネート）ができたらいいのではないか。
- 市民活動支援センターとして何ができるのか、どういったことが出来るのか等、成果を見える化することで、利便性の向上や、新しい利用者の増加につながるのではないか。
- 日ごろ市民活動に参加していない方たち（高校生や子育て世代など）や、興味はあるが参加するまでには至っていない方たちが、市民活動を見たり、聞いたり、触れたりするきっかけを作ることで参加者が増え、活動をさらに発展させることができるのではないか。
- ウィズあかしに「地域支援」の要素が見えてこない。まち協の会議をウィズあかしで行うなどをすれば、「地域支援」を知ってもらえるのではないか。
- まだまだ広報が足りない。明石の東部への広報は出来ているが、西部や中部の方に広報（出張やSNSの活用など）を行えば、よりウィズあかしが賑わうのでは？
- 『人と人』・『組織と団体』・『地域とウィズあかし』等のつながりや、『ウィズあかしで学ば

れた・活動された方が地域などの色々な場所で成果を伝える。また、別の場所で学んだこと、得た成果をウィズあかしへ伝える』そういったつながりをつくることで循環していくのではないか。

- スタッフのコーディネート力を強化する。ただし、やり過ぎてしまうと主体性が失われる危険性がある。見抜く力を鍛え、適度な関わりを維持する。
- 利用者の活動の展示や掲示を行い「見える化」することで、ウィズあかしの利用者同士でのつながりを生むことができるのではないか。
- 支援団体と市民活動団体が交流する場所を設けてはどうか。ただし、つながる工夫が必要。

3. 当運営委員会学識者のお立場からお二人の委員にご意見をいただきました。

(A委員)

多くの市民活動団体が、ウィズあかしの事についてこれだけ思いを巡らせているのはうらやましい。活動拠点としての役割も大切だが、市民活動や地域活動をされている方に資源を届けるような役割も重要。

(B委員)

ウィズあかしの成り立ちは、「男女共同参画センター」「生涯学習センター」「市民活動支援センター」の3つが1つになっている。その利点をうまく使い、それぞれの敷居をなくすのではなく、持っている強みをさらに生かすという発想が大事。

まちづくり協議会等のコミュニティ団体はまだまだ体力的に乏しい、まちづくり協議会を健康な形にする・リスクマネジメントをするのが、ウィズあかしではないかと思う。

地域コミュニティ単位のまちづくり協議会を応援していくには、お金やまちづくり計画のアドバイスも必要だが、「人権学習」を切り口としたアプローチも大切である。

例えば、防災訓練を行えば、女性差別が発生しやすい。そういう時に事前に、男女共同参画に強いNPOや人権に強いNPOを紹介して事前研修をしてあげればいい。そういった『団体を助けるNPOをつなげる役割』を担ってほしい。

そういった団体の「助かり体験」を増やしていくことでウィズあかしの大切さを解ってもらえることができる。『社会的使命を果たしていることを実証する場を演出する』そういうところにウィズあかしが位置づいてほしい。

次に、生涯学習センターの役割として大事なことは、「集団的自己決定能力」の確立である。

地域では、「人と話をする」、「人の話を聴く」ことが不得手な方が見受けられる。そういう方には社会的な表現をトレーニングしてあげてほしい。

また、「会議をする技術」のトレーニングもしてほしい。どんなに長くても3分で話しをする、どんなに長くても3分間話しを聴く。

さらにもっと勉強してほしい事としては、「会員を獲得する方法」である。広報のツール・SNSの使い方・資金の獲得方法（補助金や助成金を獲りに行く方法）・事業の開発方法（指定管理を取るにはどうすればいいのか、仕様書に対してどのように企画書を作るのか等）を実践訓練していただく。それがビジネスにつながっていく。

大きなまちづくり協議会が経営技術をブラッシュアップするには、「定款のありかた」「法人格の選び方」「法人経理」「労務管理」そういったことを学ぶ必要があり、その時期にすでにきている。そういったトレーニングや学習を行うことで「集团的自己決定能力」が確立される。三流のエリートより一流の普通の人が地域では大事。

市民活動支援センターの役割として、ウィズあかしにすれば何らかの情報が得られる・情報が得られなくても職員の笑顔にふれられる等、プラスを得られるセンターであってほしい。

市民活動支援センターはアソシエーション型のNPOだけでなく、コミュニティ型のまちづくり協議会のリーダーにとっても必要な場所であり、それらを出会わす場であってほしい。

そして、ウィズあかしの職員には、アソシエーション型の人とコミュニティ型の人では、考え方が似て異なるものであることを深く理解してほしい。

コンピテンシー（周りに協力してもらう力）こそが地域コミュニティのパワーである。アビリティ（自分で何とかする力）ではない。そういったことを理解して身に着く場所であってほしい。

今回のディスカッションで出た意見を聞いていると、その理解が良くできていると感じた。特にアウトリーチの発想がでてきたことは良いこと。こちらから出向くことは大切。

以上のご意見をいただきました。